

平成28年 9 月 1 日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
(コード番号 2369：東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 川畑 譲
(Tel： 03-5439-9691)

(訂正)「平成 27 年 12 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の一部訂正について

記

当社は、平成 28 年 8 月 9 日付「平成 28 年 12 月期第 2 四半期決算発表の延期に関するお知らせ」ならびに平成 28 年 8 月 12 日付「平成 28 年 12 月期第 2 四半期報告書の提出期限延長申請に係る承認のお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、過年度の決算訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成 27 年 5 月 13 日付「平成 26 年 12 月期第 1 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の訂正作業が完了いたしましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には__を付して表示しております。

以 上

(訂正後)

平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月13日

上場会社名 株式会社メディックグループ 上場取引所 東
コード番号 2369 URL <http://www.medibic.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 窪島 肇
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 疋田 賢司 (TEL) 03-5439-9691
四半期報告書提出予定日 平成27年5月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第1四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	35	△28.6	△88	—	△114	—	△122	—
26年12月期第1四半期	49	4.5	△109	—	△117	—	△138	—

(注) 包括利益 27年12月期第1四半期 △122百万円(—%) 26年12月期第1四半期 △131百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	△4.18	—
26年12月期第1四半期	△4.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第1四半期	662	381	53.7
26年12月期	464	392	84.6

(参考) 自己資本 27年12月期第1四半期 355百万円 26年12月期 392百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	—	—	—	—
27年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	117	44.2	△202	—	△200	—	△201	—	△6.92
通期	704	381.7	6	—	10	—	10	—	0.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

27年12月期 1 Q	29,408,020株	26年12月期	29,059,820株
27年12月期 1 Q	—株	26年12月期	—株
27年12月期 1 Q	29,175,887株	26年12月期 1 Q	28,351,487株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府による金融政策を背景に企業収益や雇用の改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いております。一方、為替や原材料価格の急激な変動や海外経済の下振れリスクや海外政情不安等、景気の先行きについては不透明な状態が続いております。

当社グループを取り巻く環境としましては、政府が推進する医療分野の成長戦略の取り組みのもと、iPS細胞などによる「再生医療」の早期実現、ゲノムコホート研究、バイオバンク基盤整備、「個別化（テーラーメイド）医療」などの取り組みが活発化しました。

このような状況のもと当社グループは、検体保管事業による匿名化システムの開発案件や患者様ダイレクトに遺伝子検査事業を展開してまいりました。

また、新たな資本政策として第三者割当による新株式及び新株予約権発行による資本提携を行い、新株式発行により84,960千円及び新株予約権発行により26,350千円の資金調達を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績、セグメントの業績は、次のとおりであります。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	35,590	△14,245
営業損失	<u>88,343</u>	<u>△21,589</u>
経常損失	<u>114,432</u>	<u>△3,048</u>
四半期純損失	<u>122,081</u>	<u>△16,829</u>

① 遺伝子事業

遺伝子事業につきましては、『おくすり体質検査』『CYP2D6遺伝子検査』などの販売を直販、クリニック、調剤薬局などを通じて行ってまいりました。

「CYP2D6遺伝子検査」では、「乳がん患者」のみをターゲットとした初めての直販サービスに取り組んでおります。今後はこれらの直販サービス拡大のため、「Cheer Woman」という乳がん患者のみに特化したSNS（ソーシャルネットワークサービス）を通じて、より広く遺伝子検査の市場浸透に取り組む方針であります。

おくすり体質検査は、主に調剤薬局からの引き合いで販売をしていますが、今後も薬による副作用発症リスク判定を遺伝子レベルで手軽に行うことができる検査として、販売の拡充を進めております。

さらに、「AGA（男性型脱毛症）」や「認知症」に関する遺伝子検査については、遺伝子検査を活用した商材販売やネットユーザー囲い込みの観点から、商社やIT企業等からの問い合わせが増えており、販路構築を進めてまいりました。

この結果、遺伝子事業の売上高は30,678千円（前年同四半期比13.9%増）、セグメント損失（営業損失）は16,272千円（前年同四半期はセグメント損失7,280千円）となりました。

② 治験支援事業

治験支援事業につきましては、治験コーディネイト業務のターゲットとして婦人科系、消化器系、整形外科系に注力して営業展開を行い、活動してまいりました。

この結果、治験支援事業の売上高は4,342千円（前年同四半期比77.4%減）、セグメント損失（営業損失）は3,624千円（前年同四半期はセグメント利益3,269千円）となりました。

③ 再生医療事業

再生医療事業におきましては、前年度に引き続き「脊髄損傷」および「重症肝疾患」犬への脂肪由来間葉系幹細胞の投与治験を全国450の動物病院にて進めております。

また、これまで治験において蓄積した幹細胞の分離・培養技術を、自動化する装置の開発に着手しており、試作機の運用、本機を使用しての生産に取り組んでいます。

さらに、細胞加工技術や難治性疾患領域において大学との共同研究を進めており、今後の成長分野に積極的に投資を行っております。

この結果、再生医療事業の売上高は570千円（前年同四半期比79.3%減）、セグメント損失（営業損失）は9,572千円（前年同四半期はセグメント損失31,129千円）となりました。

④ その他

その他事業につきましては、米国Eleison Pharmaceuticals, LLC. (Eleison社) が開発している抗がん剤 Glufosfamide (グルフォスファミド) の支援に取り組んでおります。

Eleison社は、第Ⅲ相臨床試験申請が遅延しておりましたが、平成25年10月7日付すい臓がん患者に対するグルフォスファミドの安全性と有効性を評価するための第Ⅲ相試験を米国内にて開始したことを発表しました。主要エンドポイントは、全生存期間です。Eleison社は、この第Ⅲ相試験のためのSPA (Special Protocol Assessment) を米国食品医薬品局 (FDA) と協定を締結しております。当初第Ⅲ相試験は、平成27年完了の予定であり、試験完了後にNDA (新薬承認申請) をFDAに申請する計画でしたが、現在試験期間を平成29年まで延長したため、NDAもその時期になる見通しであります。

こうした状況下で当社グループは、Eleison社との共同開発支援パートナーとして、米国およびグローバルでの臨床試験の経過を注視しつつ、アジア地域におけるライセンス販売活動を進めているところであります。

この結果、その他事業における売上高は計上しておりません (前年同四半期の売上高は943千円)、セグメント損失 (営業損失) は2,735千円 (前年同四半期はセグメント損失23,473千円) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は662,451千円となり、前連結会計年度末に比べ198,153千円増加いたしました。主な要因としては、現金及び預金の増加220,691千円、未収入金の増加7,953千円、貸倒引当金の増加26,209千円等によるものであります。

負債は280,666千円となり、前連結会計年度末に比べ209,308千円増加いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少25,555千円、預り金の増加217,175千円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ11,154千円減少し、381,784千円となりました。これは第三者割当増資による新株式の発行に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ42,480千円増加し、第三者割当による新株予約権発行に伴い新株予約権が26,350千円増加したものの、四半期純損失122,081千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月12日付「平成26年12月期決算短信」において公表いたしました平成27年12月期の連結業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして前連結会計年度まで継続してマイナスを計上しており、当第1四半期連結累計期間におきましても営業損失88,343千円、経常損失114,432千円、四半期純損失122,081千円を計上するに至っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく安定した財務基盤の確立に向けて「事業収益の拡大」を経営の柱として取り組んでおります。

1. 営業活動資金の確保の施策

営業活動資金の確保といたしまして、新たな資金調達の実施を予定しております。当該資金調達での営業活動資金の十分な確保を行うことにより、営業活動資金の不確実性を解消する予定であります。

2. 収益の向上の施策

営業活動の収益改善をするための対応策として、遺伝子事業及び再生医療事業における事業領域の拡大を施策し収益力の改善を行って参ります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	156,720	377,412
受取手形及び売掛金	43,025	39,830
商品及び製品	2,030	—
仕掛品	7,627	8,474
貯蔵品	9	8
未収入金	49,763	57,717
その他	54,938	58,760
貸倒引当金	△22,685	△21,785
流動資産合計	291,429	520,417
固定資産		
有形固定資産	25,160	20,175
無形固定資産	36,418	36,254
投資その他の資産		
投資有価証券	123,920	122,986
その他	17,178	19,536
貸倒引当金	△29,810	△56,918
投資その他の資産合計	111,289	85,604
固定資産合計	172,867	142,033
資産合計	464,297	662,451
負債の部		
流動負債		
買掛金	501	1,501
未払法人税等	29,530	3,974
1年内返済予定の長期借入金	2,113	2,120
預り金	2,396	219,572
その他	29,894	47,659
流動負債合計	64,436	274,827
固定負債		
長期借入金	4,026	3,493
繰延税金負債	2,895	2,345
固定負債合計	6,922	5,838
負債合計	71,358	280,666
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,926,955	2,969,435
資本剰余金	3,460,152	3,502,633
利益剰余金	△5,999,398	△6,121,479
株主資本合計	387,709	350,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,229	4,845
その他の包括利益累計額合計	5,229	4,845
新株予約権	—	26,350
純資産合計	392,939	381,784
負債純資産合計	464,297	662,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	49,836	35,590
売上原価	41,632	18,161
売上総利益	8,204	17,429
販売費及び一般管理費	118,137	105,772
営業損失(△)	△109,933	△88,343
営業外収益		
受取利息	167	278
助成金収入	486	486
その他	9	1
営業外収益合計	662	766
営業外費用		
支払利息	35	26
支払手数料	4,300	600
貸倒引当金繰入額	—	26,209
投資事業組合等損失	1,700	—
その他	2,174	19
営業外費用合計	8,210	26,855
経常損失(△)	△117,481	△114,432
特別利益		
固定資産売却益	—	1,651
関係会社株式売却益	977,336	—
特別利益合計	977,336	1,651
特別損失		
減損損失	9,154	2,130
貸倒引当金繰入額	977,335	—
固定資産売却損	9,696	—
固定資産廃棄損	—	6,549
その他	1,900	—
特別損失合計	998,086	8,679
税金等調整前四半期純損失(△)	△138,230	△121,460
法人税、住民税及び事業税	693	621
法人税等合計	693	621
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△138,924	△122,081
少数株主損失(△)	△13	—
四半期純損失(△)	△138,910	△122,081

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△138,924	△122,081
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,328	△384
その他の包括利益合計	7,328	△384
四半期包括利益	△131,595	△122,465
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,582	△122,465
少数株主に係る四半期包括利益	△13	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを前連結会計年度まで継続して計上しており、当第1四半期連結累計期間におきましても営業損失88,343千円、経常損失114,432千円、四半期純損失122,081千円を計上するに至っており、十分な営業活動資金の確保が確実でない状況にあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく安定した財務基盤の確立に向けて「事業収益の拡大」を経営の柱として取り組んでおります。

1. 営業活動資金の確保の施策

営業活動資金の確保といたしまして、新たな資金調達の実施を予定しております。当該資金調達での営業活動資金の十分な確保を行うことにより、営業活動資金の不確実性を解消する予定であります。

2. 収益の向上の施策

営業活動の収益改善をするための対応策として、遺伝子事業及び再生医療事業における事業領域の拡大を施策し収益力の改善を行って参ります。

しかしながら、これらの施策は実施途上であるため、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年3月2日付で、ロート製薬株式会社、株式会社ユニヴァ・キャピタル・ファイナンス、株式会社フォーシス アンド カンパニーから第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が42,480千円、資本準備金が42,480千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,969,435千円、資本剰余金が3,502,633千円となっております。

(セグメント情報等)

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,930	19,203	2,760	943	49,836	—	49,836
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	26,930	19,203	2,760	943	49,836	—	49,836
セグメント利益又は損失(△)	△7,280	3,269	△31,129	△23,473	△58,613	△51,319	△109,933

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△51,319千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他事業」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては9,154千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度から当第1四半期連結会計期間にかけての連結子会社の増減に伴い、事業セグメントの区分を見直し、報告セグメントを従来の「バイオマーカー創薬支援事業」「テラーメイド健康管理支援事業」「創薬事業」「投資・投資育成事業」から、「遺伝子事業」「治験支援事業」「再生医療事業」「その他事業」に変更しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	30,678	4,342	570	—	35,590	—	35,590
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	30,678	4,342	570	—	35,590	—	35,590
セグメント損失(△)	△16,272	△3,624	△9,572	△2,735	△32,205	△56,137	△88,343

(注) 1. セグメント損失の調整額△56,137千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(固定資産に係る重要な減損損失)

「再生医療事業」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては2,130千円であります。

(訂正前)

平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月13日

上場会社名 株式会社メディックグループ 上場取引所 東
コード番号 2369 URL <http://www.medibic.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 窪島 肇
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 疋田 賢司 (TEL) 03-5439-9691
四半期報告書提出予定日 平成27年5月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第1四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	35	△28.6	△113	—	△139	—	△145	—
26年12月期第1四半期	49	4.5	△109	—	△117	—	△138	—

(注) 包括利益 27年12月期第1四半期 △145百万円(—%) 26年12月期第1四半期 △131百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	△4.98	—
26年12月期第1四半期	△4.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第1四半期	939	874	90.3
26年12月期	980	908	92.7

(参考) 自己資本 27年12月期第1四半期 848百万円 26年12月期 908百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	—	—	—	—
27年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	117	44.2	△202	—	△200	—	△201	—	△6.92
通期	704	103.5	6	—	10	—	10	—	0.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

27年12月期 1 Q	29,408,020株	26年12月期	29,059,820株
27年12月期 1 Q	—株	26年12月期	—株
27年12月期 1 Q	29,175,887株	26年12月期 1 Q	28,351,487株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府による金融政策を背景に企業収益や雇用の改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いております。一方、為替や原材料価格の急激な変動や海外経済の下振れリスクや海外政情不安等、景気の先行きについては不透明な状態が続いております。

当社グループを取り巻く環境としましては、政府が推進する医療分野の成長戦略の取り組みのもと、iPS細胞などによる「再生医療」の早期実現、ゲノムコホート研究、バイオバンク基盤整備、「個別化（テーラーメイド）医療」などの取り組みが活発化しました。

このような状況のもと当社グループは、検体保管事業による匿名化システムの開発案件や患者様ダイレクトに遺伝子検査事業を展開してまいりました。

また、新たな資本政策として第三者割当による新株式及び新株予約権発行による資本提携を行い、新株式発行により84,960千円及び新株予約権発行により26,350千円の資金調達を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績、セグメントの業績は、次のとおりであります。

	実績(千円)	対前年同期増減(千円)
売上高	35,590	△14,245
営業損失	<u>113,723</u>	<u>3,790</u>
経常損失	<u>139,812</u>	<u>22,331</u>
四半期純損失	<u>145,331</u>	<u>6,420</u>

① 遺伝子事業

遺伝子事業につきましては、『おくすり体質検査』『CYP2D6遺伝子検査』などの販売を直販、クリニック、調剤薬局などを通じて行ってまいりました。

「CYP2D6遺伝子検査」では、「乳がん患者」のみをターゲットとした初めての直販サービスに取り組んでおります。今後はこれらの直販サービス拡大のため、「Cheer Woman」という乳がん患者のみに特化したSNS（ソーシャルネットワークサービス）を通じて、より広く遺伝子検査の市場浸透に取り組む方針であります。

おくすり体質検査は、主に調剤薬局からの引き合いで販売をしていますが、今後も薬による副作用発症リスク判定を遺伝子レベルで手軽に行うことができる検査として、販売の拡充を進めております。

さらに、「AGA（男性型脱毛症）」や「認知症」に関する遺伝子検査については、遺伝子検査を活用した商材販売やネットユーザー囲い込みの観点から、商社やIT企業等からの問い合わせが増えており、販路構築を進めてまいりました。

この結果、遺伝子事業の売上高は30,678千円（前年同四半期比13.9%増）、セグメント損失（営業損失）は16,272千円（前年同四半期はセグメント損失7,280千円）となりました。

② 治験支援事業

治験支援事業につきましては、治験コーディネイト業務のターゲットとして婦人科系、消化器系、整形外科系に注力して営業展開を行い、活動してまいりました。

この結果、治験支援事業の売上高は4,342千円（前年同四半期比77.4%減）、セグメント損失（営業損失）は3,624千円（前年同四半期はセグメント利益3,269千円）となりました。

③ 再生医療事業

再生医療事業におきましては、前年度に引き続き「脊髄損傷」および「重症肝疾患」犬への脂肪由来間葉系幹細胞の投与治験を全国450の動物病院にて進めております。

また、これまで治験において蓄積した幹細胞の分離・培養技術を、自動化する装置の開発に着手しており、試作機の運用、本機を使用しての生産に取り組んでいます。

さらに、細胞加工技術や難治性疾患領域において大学との共同研究を進めており、今後の成長分野に積極的に投資を行っております。

この結果、再生医療事業の売上高は570千円（前年同四半期比79.3%減）、セグメント損失（営業損失）は34,952千円（前年同四半期はセグメント損失31,129千円）となりました。

④ その他

その他事業につきましては、米国Eleison Pharmaceuticals, LLC. (Eleison社) が開発している抗がん剤 Glufosfamide (グルフォスファミド) の支援に取り組んでおります。

Eleison社は、第Ⅲ相臨床試験申請が遅延しておりましたが、平成25年10月7日付すい臓がん患者に対するグルフォスファミドの安全性と有効性を評価するための第Ⅲ相試験を米国内にて開始したことを発表しました。主要エンドポイントは、全生存期間です。Eleison社は、この第Ⅲ相試験のためのSPA (Special Protocol Assessment) を米国食品医薬品局 (FDA) と協定を締結しております。当初第Ⅲ相試験は、平成27年完了の予定であり、試験完了後にNDA (新薬承認申請) をFDAに申請する計画でしたが、現在試験期間を平成29年まで延長したため、NDAもその時期になる見通しであります。

こうした状況下で当社グループは、Eleison社との共同開発支援パートナーとして、米国およびグローバルでの臨床試験の経過を注視しつつ、アジア地域におけるライセンス販売活動を進めているところであります。

この結果、その他事業における売上高は計上しておりません (前年同四半期の売上高は943千円)、セグメント損失 (営業損失) は2,735千円 (前年同四半期はセグメント損失23,473千円) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は939,046千円となり、前連結会計年度末に比べ41,096千円減少いたしました。主な要因としては、現金及び預金の増加220,691千円、売掛金の減少219,194千円、のれんの減少17,083千円、貸倒引当金の増加26,209千円等によるものであります。

負債は64,666千円となり、前連結会計年度末に比べ6,691千円減少いたしました。主な要因は、未払法人税等の減少25,555千円、その他流動負債の増加18,940千円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ34,404千円減少し、874,379千円となりました。これは第三者割当増資による新株式の発行に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ42,480千円増加し、第三者割当による新株予約権発行に伴い新株予約権が26,350千円増加したものの、四半期純損失145,331千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月12日付「平成26年12月期決算短信」において公表いたしました平成27年12月期の連結業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、営業損失、経常損失、当期純損失及び営業活動によるキャッシュ・フローにおきまして前連結会計年度まで継続してマイナスを計上しており、当第1四半期連結累計期間におきましても営業損失113,723千円、経常損失139,812千円、四半期純損失145,331千円を計上するに至っており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループにおきましては、当該状況を解消すべく、「事業収益の拡大」及び「資産のキャッシュ化」を経営の柱として、引き続き安定した財務基盤の確立に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	156,720	377,412
受取手形及び売掛金	259,025	39,830
商品及び製品	2,030	—
仕掛品	7,627	8,474
貯蔵品	9	8
未収入金	49,763	57,717
その他	18,765	22,587
貸倒引当金	△22,685	△21,785
流動資産合計	471,256	484,244
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	77,017	70,880
その他（純額）	24,174	22,893
建設仮勘定	3,734	—
有形固定資産合計	104,925	93,774
無形固定資産		
のれん	256,252	239,169
その他	36,418	36,254
無形固定資産合計	292,670	275,423
投資その他の資産		
投資有価証券	123,920	122,986
その他	17,178	19,536
貸倒引当金	△29,810	△56,918
投資その他の資産合計	111,289	85,604
固定資産合計	508,885	454,801
資産合計	980,142	939,046
負債の部		
流動負債		
買掛金	501	1,501
未払法人税等	29,530	3,974
1年内返済予定の長期借入金	2,113	2,120
その他	32,291	51,231
流動負債合計	64,436	58,827
固定負債		
長期借入金	4,026	3,493
繰延税金負債	2,895	2,345
固定負債合計	6,922	5,838
負債合計	71,358	64,666
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,926,955	2,969,435
資本剰余金	3,460,152	3,502,633
利益剰余金	△5,483,553	△5,628,884
株主資本合計	903,555	843,184
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,229	4,845

その他の包括利益累計額合計	5, 229	4, 845
新株予約権	—	26, 350
純資産合計	<u>908, 784</u>	<u>874, 379</u>
負債純資産合計	<u>980, 142</u>	<u>939, 046</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	49,836	35,590
売上原価	41,632	18,219
売上総利益	8,204	17,371
販売費及び一般管理費	118,137	131,094
営業損失(△)	△109,933	△113,723
営業外収益		
受取利息	167	278
助成金収入	486	486
貸倒引当金戻入額	—	583
その他	9	1
営業外収益合計	662	1,349
営業外費用		
支払利息	35	26
支払手数料	4,300	600
貸倒引当金繰入額	—	26,792
投資事業組合等損失	1,700	—
その他	2,174	19
営業外費用合計	8,210	27,438
経常損失(△)	△117,481	△139,812
特別利益		
固定資産売却益	—	1,651
関係会社株式売却益	977,336	—
特別利益合計	977,336	1,651
特別損失		
減損損失	9,154	—
貸倒引当金繰入額	977,335	—
固定資産売却損	9,696	—
固定資産廃棄損	—	6,549
その他	1,900	—
特別損失合計	998,086	6,549
税金等調整前四半期純損失(△)	△138,230	△144,710
法人税、住民税及び事業税	693	621
法人税等合計	693	621
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△138,924	△145,331
少数株主損失(△)	△13	—
四半期純損失(△)	△138,910	△145,331

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△138,924	△145,331
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,328	△384
その他の包括利益合計	7,328	△384
四半期包括利益	△131,595	△145,715
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,582	△145,715
少数株主に係る四半期包括利益	△13	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年3月2日付で、ロート製薬株式会社、株式会社ユニヴァ・キャピタル・ファイナンス、株式会社フォーシス アンド カンパニーから第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が42,480千円、資本準備金が42,480千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,969,435千円、資本剰余金が3,502,633千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,930	19,203	2,760	943	49,836	—	49,836
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	26,930	19,203	2,760	943	49,836	—	49,836
セグメント利益又は損失(△)	△7,280	3,269	△31,129	△23,473	△58,613	△51,319	△109,933

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△51,319千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他事業」セグメントにおいて減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては9,154千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度から当第1四半期連結会計期間にかけての連結子会社の増減に伴い、事業セグメントの区分を見直し、報告セグメントを従来の「バイオマーカー創薬支援事業」「テーラーメイド健康管理支援事業」「創薬事業」「投資・投資育成事業」から、「遺伝子事業」「治験支援事業」「再生医療事業」「その他事業」に変更しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遺伝子事業	治験支援 事業	再生医療 事業	その他事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	30,678	4,342	570	—	35,590	—	35,590
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	30,678	4,342	570	—	35,590	—	35,590
セグメント損失（△）	△16,272	△3,624	<u>△34,952</u>	△2,735	<u>△57,585</u>	△56,137	<u>△113,723</u>

（注） 1. セグメント損失の調整額△56,137千円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。